

## VISTA 8 ユーザーレポート

東海テレビ放送株式会社 様

VISTA 8

### 3 台目のスチューダー・デジタルコンソールを A サブに



■ Aスタジオ・サブ

東海テレビ放送株式会社様は、新社屋内のメインスタジオといえるAスタジオ・サブを更新。音声卓には、同社の音声中継車、MA室と実績を重ねたSTUDERを再び採用することになりました。



東海テレビ放送株式会社  
技術局 制作技術部  
倉地 洋介

#### Aサブについて

弊社では2003年に新社屋が完成し、制作サブの映像・音声設備を更新、2006年1月より運用を開始しました。Aサブは弊社の制作サブの要であり、スタジオ番組の生放送・収録はもちろん、スポーツ中継の受けサブ等、様々な運用に対応しています。

#### VISTA 8

音声中継車にD950M2（2002年）、MA室にはVISTA 7（2003年）を既に採用しており、今回のVISTA 8で弊社としては3台目のSTUDER製デジ

タル卓となりました。STUDER卓の音質（最初にD950M2を導入した際は、その音質の圧倒的な違いに感動したものです）や、操作性のわかりやすさは既に体感していましたし、音中車、MA室ともに納入以来、ハード、ソフトともに大きなトラブルもなく安心して運用しているという事実は何ものにも代え難いものでした。VISTA 8については、特にデスクデザインが洗練されており、制作意欲がわくような魅力的なサーフェイスだと思いました。また、コントロールPCや電源が2重化されていることも、様々な生番組を扱うAサブの音声卓として重要なポイントでしたし、扱うチャンネル数が多いのにラックが1本で収まる点もVISTAの長所でした。

そしてもう一つ大事なことは、海外製品にも関わらずサポートがしっかりしているということです。スチューダー・ジャパンの皆様にはよくわがままを聞



■充実した音効エリア



■デスク左側にblankフレームを装備



■サラウンドスピーカーは可動式



■カスタム MATRIX パネル

いてもらっており、このような信頼関係こそが何よりも大切であると考えています。これこそが一番の選定理由かもしれません。

#### カスタム MATRIX パネル

基本的に全ての番組がワンマンオペレートのため、卓前に座ったままで、本線以外にもN-1やPA送りなど様々なセンドシステムを監視する必要があり、PA & N-1用 MATRIX をシステムを担当していただいたタムラ製作所様に発注、VISTA デスクに埋め込んでもらいました。VISTA サーフェイスとの一体感にこだわり、LEDメーターにはSTUDER製を使用しています。また、TEL HYBリモートやOSCスイッチ、SE機器 START/STOP等をレイアウトし、とても使い勝手のよいデスクになったと思います。

#### モニタリング環境

モニタリングの環境作りにはこだわりました。特に部屋の初期設計や空調等が重要であると考え、新社屋の建設プロジェクト当初から、日東紡音響エンジニアリング様に音響設計・施工をお願いしました。また将来のサラウンド化を見据えそれに対応できるモニター環境を整えたかったため、音声のために出来るだけ広いスペースを確保してもらいました。こうした努力の甲斐あって、結果的に満足できるモニタリング環境になったと思います。

今回の更新でAサブは、音質、操作性、さらに音響特性といった、いろんな意味で「良い」音声設備になりました。今後も様々な番組でこのシステムを使いこなしていきたいと思っています。



■マシンルーム内のVISTAラックは1本